「ぱるす」は、当センターと患者様をつなぐ為に発刊している情報新聞です。 センターの活動や、患者様との交流をお伝え致します。

# はるす第32号





発行日 2018年7月19日

発 行 札幌歯科医師会 口腔医療センター

〒064-0807 札幌市中央区南7条西10丁目 ☎ (011) 512-9497 FAX (011) 511-2272

URL: https://sapporo-oral-med.jp

E-mail: omc-s@dnet.or.jp

中澤 潤

発行責任者 諸留 裕

編集責任者

札幌歯科医師会

一般社団法人札幌歯科医師会 札幌歯科学院専門学校 口腔医療センタ 札幌歯科医師協同組合



口腔医療センターは大きく障がい者診療部、夜間救急診療部、企画研修部に分けられます。

企画研修部が中心になって行っている事業の中に介護・ 口腔ケアセミナーがあります。本事業を開始したのは平成10 年です。もうすぐ20年になりますね。

当時はまだ口腔ケアという言葉自体がまだ一般的ではなく、高齢者の口腔内の汚れを除くこと、口腔の機能を健康に保つことの効果、重要性についても広く認知されていませんでした。当然のことながら当時はまだ「誤嚥性肺炎」がやっと登場し

たくらい、今では広く知られている「オーラルフレイル」が登場するのはずっと先です。本セミナーは当初在宅介護者教育講座という名でスタートしました。在宅でお年寄りの介護にあたる家族や介護士、看護師、札幌歯科医師会会員、会員診療所勤務スタッフなどセミナーを受講する方々によって内容を工夫し、その時その時の新しい口腔ケアの知識、技術を加えながら現在まで毎年開催されております。継続は力なりとはよく言ったもので昨年度までで通算で3000名以上の受講者を数えております。

介護・口腔ケアセミナーは6年前から札幌市の委託事業という形になり、「札幌市高齢者口腔ケア研修事業 介護・口腔ケアセミナー」という名称になりました。現在本セミナーは医療・介護従事者を対象として、いろいろな規模で年間数回開催されております。なかでも年1回開催の大規模講演会は、受講者約200名で日本における介護・口腔ケア学部門、摂食嚥下リハビリテーション学部門を先頭に立って牽引されている方々を講師にお招きして開催しております。今年度は5月11日(金)に横浜市立大学市民総合医療センターリハビリテーション科 若林秀隆先生に「サルコペニアの嚥下障害とリハビリテーション栄養」という講演名で、ご講演いただきました。最近は歯科医師や歯科衛生士だけでなく、医師や看護師、作業療法士、介護士、管理栄養士等多職種との連携の必要性が重要視され、実際に各地で多職種による口腔ケアへの取り組みが増えてきました。また口腔内や入れ歯についた汚れを取り除くだけでなく、飲み込む能力の改善を通じての誤嚥への対応、さらに低栄養を改善して筋肉量の低下を防ぐ取り組みなどその裾野はますます拡がっております。企画研修部では口腔ケアセミナーを通じて、時代のニーズに合致した、さらに安全で効果的な最新の口腔ケアの情報を提供していきたいと考えております。

(口腔医療センター企画研修部部長 中澤 潤)

# 第23回 日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会に参加して

口腔医療センター障がい者診療部 歯科衛生士 長尾まゆみ

大会テーマ 「広げよう! つなげよう! 摂食嚥下リハビリテーションの輪」

会期 2017年9月15日(金)~9月16日(土)

会場 幕張メッセ(千葉県千葉市)

この度、初めて摂食嚥下リハビリテーション学会へ出向させていただき2日間に渡って貴重な経験をさせていただきました。会場は千葉県の幕張メッセで大変大きな会場で参加人数が約6900人を超えるものでした。医師、歯科医師をはじめ、看護師、言語聴覚士、栄養士と多職種の方々が多く、何百もの学会症例やポスターがありレベルの高さに圧倒されてばかりでしたが、多くの発表を時間が許す限り公聴させて頂きました。

口腔ケアに関する発表は当センターで取り組んでいる介護施 設への口腔ケアセミナーにとても役に立つ内容ばかりでした。



全ての発表に共通するのが、食べられる口腔へ導き、食べる喜びを思い出していただき、QOL(クオリティオブライフ)の向上に寄与していく、というものでした。今後は介護職員の方々に口腔ケアの必要性や手技、口腔機能の理解など口腔ケアの質の向上につなげていただけるようなアドバイスができるようにしていきたいと思います。

企業による製品展示では、更に進化する介護用品、医科や歯科機材などがあり、介護をする側、 される側両方が安心して心から喜んでいただける製品を目指し、日々開発されているものばかりで した。

多くの学会症例を聴講することで、医科の分野では、誤嚥性肺炎や体内感染を予防するために 口腔ケアが重要視されており、多職種連携につなげる歯科衛生士のマネジメントが必要とされて いることがわかりました。

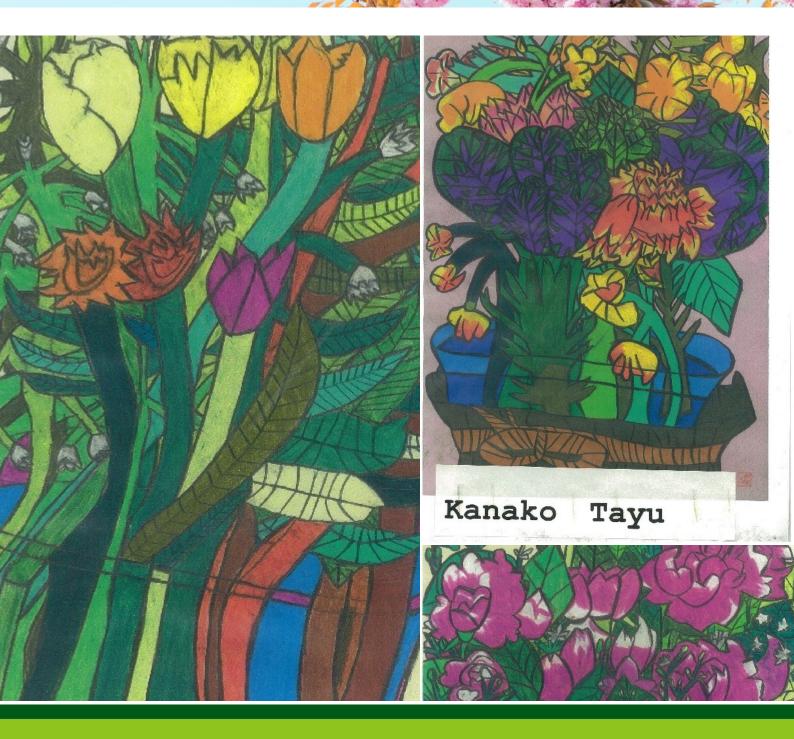
ここで知り得たことを歯科衛生士スタッフと情報交換し、スキルアップにつなげて障がい者診療の実務に活かし、一人でも多くの患者さんを笑顔にして差し上げられるよう日々精進していきたいと考えております。

# 田湯加那子さんの作品のご紹介

平成11年より白老町より定期的に検診で通院されている田湯加那子さんの作品を紹介します。

田湯さんは芸術の森美術館などで個展を開催、絵画を通じてたくさんの人 に元気を与えています。

センターの待合室にも田湯さんの作品があります。今回はその一部をご紹介します。



# 第34回 日本障害者歯科学会総会および学術大会に参加して

口腔医療センター障がい者診療部

薄泉

日 時:平成29年10月27日(金)~29日(日)

会 場:福岡国際会議場

テーマ:障害者の歯科保健医療と生活支援

この度、初めて学会出向させていただき様々な講演や報告を拝 聴しました。

障がい者歯科における歯科衛生士の役割は非常に大きく、患者さんの口腔環境のみならず全身状態の熟知も必要とする、専門性の高い仕事であるということ。また歯科専門職だけでなく、その他の医療や療育、介助などの専門職との協力のもと、診療を行うことが重要であることを改めて感じました。

印象に残った教育講座の中で、歯科受診の拒否行動が強い患者 にどのようなアプローチをするかという講演がありました。障害 の特性はもとより患者さん自身や保護者・介助者の生活、子ども への療育方針など、患者さんを取り巻く生活環境をよく理解した うえで対応することが大切で、言葉での理解が困難でも気持ちが 伝わるように働きかけていくという内容でした。



例えば、「診療室に入るだけ」「ユニットを座位の状態にしたまま患者さんと向かい合わせで 歯磨きするだけ」と少しずつ歯科環境に慣れてもらい、徐々にステップを上げ最終的に自信をもっ てクリーニングを受けられるようになるまでの様子をスライドで拝見しました。

当センターでも不安や恐怖心を持った患者さんには基本的に歯ブラシによるブラッシングから 始めています。それは単に口腔内を清掃することだけが目的ではなく、見慣れて、使用しなれてい る歯ブラシで恐怖心を和らげることを目的としています。そのブラッシング中に私たち歯科衛生 士は運動機能や口腔健康管理の状態など多くの情報を得ています。

そして歯ブラシを受け入れてくれたらたくさん誉めることで、患者さんが自信を持つきっかけ になると良いと考えています。

私たちは、第一に安心できる信頼関係の構築を考えています。患者さんの不安や恐怖心を和らげて、歯科環境に慣れていくまでの小さな目標を段階的に設定し、慣れてきたら「次に何をするのか」見通しがつき自信をもてるようになるまで患者さんに寄り添い、ともに成長していきたいと思っています。

### 編集後記 『ぱるす、リニューアルしました。』

ぱるすも通算で32号となりました。創刊は1998年になります。まさに「光陰矢の如し」です。 今回から構成、編集は安部先生から河野先生にバトンタッチです。割付、色合いがかなり変わっ たのがお分かりでしょうか?ぱるすは皆さんで作るセンターの機関紙です。投稿お待ちしており ます。

リニューアルと言えば口腔医療センターのホームページも今春リニューアルしました。より見 やすくわかりやすい内容をめざしてモデルチェンジしました。こちらも是非ご覧ください。

口腔医療センター企画研修部

# 救急診療部からのお知らせ

夜間の歯の痛みなど、救急処置を目的としています。 継続的な治療は受けられませんのでご注意下さい。

#### 診療のご案内

**診療時間**:19:00~23:00 (受付開始時間:18:30~)

#### 年中無休

電話番号: (011) 511-7774

#### 障がい者診療部からのお知らせ

障がい者診療部は、**完全予約制**になっております。

#### 診療のご案内

**診療時間**:月 14:00 ~ 17:00

火~土 9:30 ~ 17:00

(昼休 12:30~14:00)

電話番号: (011) 512-9497